

パピアン・巴比拿・梅庵とも記され、もと加賀の産で、惠俊又は惠春と稱する禪僧であつたが、夙に京都に出で、南蠻寺の伊留滿によりて痲疾を癒されたを徳とし、遂に受洗して布教に従ひ、又施療を行つたと傳へられる。天正十三年白鷹居士と宗論して敗れたと切支丹宗門來朝實記に載せられるハピアン、文祿元年天草の耶穌會學林で出版した國譯羅馬字本平家物語抜書編者のフカン・フワピアン、慶長十年妙貞問答を著して基督教の大意を述べた不干齋巴鼻庵、同十一年林道春がその弟信澄と共に、松永貞徳の紹介によつて訪問開論して、排耶穌の一編を羅山文集中に遺さしめた耶穌會者不干氏は皆同一人である。然るに慶長十八年の禁令以後、彼も亦轉宗の止むを得ざるに至つた如く、元和六年基督教を説破する爲に、破提字子の一書を著したハピアンになつたのである。

ハヒニハ 灰庭 珠洲郡折戸の内の小字。  
 ハヒフキギン 灰吹銀 一に小間銀とも切銀ともいふ。灰吹銀は慶長・元和の頃にも見え、寛永七年にも之を製して、從來の極印銀に交へ、加賀藩領内に通用せしめたとある。後世小玉銀を灰吹銀とも稱したが、寛永のは之と異にて、地銀を薄く製し、その價に隨ひ切斷使用し、錢貨の缺乏を補うたのである。後承應三年、寛永通寶新錢の行はるゝに及んで、灰吹銀の使用を停止した。

パブツ 馬佛 金澤の俳人。觀音院の僧。關東門に出で孤庵と號し、見風が柔いた俱利伽羅の寢覺塚を再興し、關東七回忌に續作原集を出した。馬佛は寛政九年に四十歳であり、通説に文政十二年歿とするが、それは誤で、

文化の初年に歿したのであらうと加能俳諧史には論じてゐる。その忌辰を十一月二日とするも、彦根の馬佛の十一月廿二日が混ぜられたものと思はれ、この馬佛の遠逝は秋であつたのである。その七周忌追善集に『なゝしもき』がある。

ハマ 濱 能美郡板津郷に屬する部落。郷村名義抄に、この村は初め浦方の塩士等、濱十六町(無家の地)の懸作にして居たものであるが、萬治三年に手上高として村名を稱するに至つたと記する。  
 ハマ 濱 石川郡専光寺の内の小字。  
 ハマアソビ 濱遊び 金澤の士民が、石川郡宮腰の海岸に濱遊びをすることは、藩政の頃四月中に行はれた。  
 ハマカイホツ 濱開發 ハマカイ 能美郡板津郷に屬する部落。  
 ハマキタ 濱北 河北郡金津庄に屬する北(部落名)は、明治中に至つて濱北と改められた。

ハマグリザカシンミチ 蛤坂新道 金澤蛤坂の下から、犀川川縁を上る往來をいふ。もと河原であつたが、慶應元年七月蛤坂の麓から吹上坂に至るまで堤防を築出し、漸次家屋の建つに及んで、明治三年七月蛤坂新町と公稱したが、俗には蛤坂新道と呼ばれる。  
 ハマグリザカマチ 蛤坂町 金澤の町名。舊名を妙慶寺坂というた。往古この地の泉野であつた時から既に通路が在つたが、元祿年間より漸く崩壊し、享保の火災の際大に混雜して怪我人を出した。故にその後家屋を退かせて川岸を築出し、一條の道路を開いたので、世人は焼けて後口を開いたとの意で、蛤坂と

呼んだといふ。蛤坂の通り筋はもと妙慶寺門前と稱したが、明治四年四月戸籍編成の際新に蛤坂町といふことにした。  
 ハマゲイコ 濱稽古 加賀藩に於いて、長距離射的の銃砲術を、石川郡宮腰又は普正寺の海濱に行つたことをいふ。  
 ハマサキチヨウジロウ 濱崎長治郎 輪島塗に蒔繪を施したものゝ祖。もと大坂の人泉徳義の長子で、寛政十三年五月生まれ、幼名徳治、次いで宗吉と改めた。文化中京に入り四條中川氏に蒔繪の術を習うて之に熟し、天保の初輪島に來つてその業に従つた。これ先代濱崎長治郎が輪島塗に蒔繪を應用せんと欲し、宗吉を養子としたるによる。宗吉後に十三代長治郎となり、明治二年九月十四日を以て歿した。

ハマサミ 濱佐美 能美郡佐美の枝村であるが、大聖寺藩は獨立の部落に數へてゐた。芝懸紀開に、邑民は越前米納津村から引越したもので、三國西光寺の門徒であつたが、寛政中西光寺が錦織派になつたから、一村日末聖徳寺に屬したとある。濱佐美は明治以降亦獨立の部落とする。  
 ハマソウガハ 濱相川 ハマソウ 石川郡相川の内の小字で、元は上相川及び一屋といふたものである。  
 ハマダ 濱田 能美郡板津郷に屬する無家の地であつた。天正十三年二月九日附村上次郎左衛門頼勝から小松本蓮寺に宛てた寄進狀に『永代奉寄進田畠之事。合六反者、加州能美郡小松濱田之内中道より南當寺御屋敷際田五反並廟所之畠壹反也。云々』とある。  
 ハマダ 濱田 石川郡神合の内の小字。

ハマダ 濱田 羽咋郡岩田の内の小字。  
 ハマダ 濱田 羽咋郡笹田の内の小字。  
 ハマダ 濱田 鹿島郡熊木院に屬する部落。久麻加夫郡阿良加志比古神社藏貞應三年の立券狀に濱田里とあるものは是である。  
 ハマダゾウリ 濱田草履 鹿島郡豊田・豊田町・河崎等に製する草履で、緒に色彩ある布片を交へて絢うたものである。この名稱は隣邑に濱田があるから、そこで初めた爲であらうといはれる。  
 ハマダヤクシ 濱田薬師 鳳至郡大川の濱田谷内なる小堂に在る。能登名跡志に『是は時國の散村に大川といふ所にあり。靈像の薬師如來、當國十二薬師の内なり。』又能登誌に『濱の薬師とて、弘法大師の作佛といふ靈像あり。むかしは西の坊といふ寺ありといへり。』と記する。今の像の背面に應永二歲次丁丑十二月十三日敬白とあるのは舊銘であらうが、佛體は新造のものである。  
 ハマナコゲンダ 濱名小源太 後五兵衛と改めた。元祿七年養父小十郎の遺知百五十石を受け、享保九年五十石を加へ、源光院附御用人となり、寛延三年七十九歳を以て歿した。  
 ハマナヤゴエモン 濱名彌五右衛門 初めて前田利常に仕へて四百石を受けた。子孫世藩に仕へる。  
 ハマノ 濱野 能美郡安宅新と濱佐美との間に在る砂丘をいふ。  
 ハマハツタ 濱八田 石川郡八田の内の小字。  
 ハマヤスハラ 濱安原 石川郡下安原の内の小字。  
 ハヤウチ 早打 藩政時代に、特便を命ぜ